

別紙2

5 いじめの早期発見、6 いじめの対処

対応の流れ	教職員の動き等	留意点
<p>1 いじめ情報のキャッチ</p> <p>(1)朝の出席確認、健康観察 (2)学校生活アンケートの実施 (3)日記の活用、連絡帳の確認 (4)日常のコミュニケーション (5)保護者との協力・連携 (6)関係機関との情報交換と連携 (7)家庭地域との連携</p> <p>2 報告</p> <p>(1)憶測を入れず、事実のみを報告</p> <p>1日目に対応（その日に）</p>	<pre> graph TD A[生徒・教職員・保護者] -- 情報 --> B[教師] B --> C[学年主任・関係職員] C -- 報告 --> D[生徒指導主任] D -- 管理職
（生徒指導委員会） -- 指示 --> E[生徒指導主任・学年主任・担任] </pre> <p>※小さなトラブルは、すぐに対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○小さなトラブルを見逃さないようにする。 ○全教職員ですべての生徒を見守る。 ○報告は早く、正確にする。(5W1H)
<p>3 事実の正確な把握・情報収集</p> <p>(1)いじめられた生徒・いじめた生徒から事実確認・情報収集 (2)他の生徒、教職員から事実確認・情報収集</p> <p>「いじめ対策支援チーム会議」 ①被害者直接指導班 ②加害者直接指導班 ③指導サポート班</p> <p>迅速な対応（その日に）</p>	<p>【いじめと認知、判断した場合】</p> <pre> graph TD A[関係教職員] --> B[被害者] A --> C[加害者] A --> D[他の生徒] B --> E[関係教職員] C --> E D --> E E -- 事情聴取 --> F[管理職
（生徒指導委員会）] E -- 情報の突き合わせ --> G[関係教職員] F -- 指示 --> H[生徒指導主任・学年主任・担任] </pre>	<ul style="list-style-type: none"> ○訴えに対しては、その日のうちに行動する。 ○被害者の「大丈夫」は鵜呑みにしない。 ○傾聴、共感的理解、適応へのサポートをしっかりと行う。 ○恐喝、暴力行為等は警察等と連携する。 ○見通し（生徒への指導・保護者への対応をいつまでに・誰が・どこまでやる）を確認・共有する。
<p>4 いじめへの対応</p> <p>(1)いじめられている生徒への支援 (2)いじめている生徒への指導 (3)はやし立てる、見て見ぬふりをする生徒への指導 (4)担任から保護者へ連絡</p> <p>迅速な対応</p>	<pre> graph TD A[全教職員] --> B[管理職] A --> C[担任] A --> D[学年教職員] A --> E[生徒指導主任] A --> F[他学年の教職員] A --> G[養護教諭] A --> H[特別支援コーディネーター] B --> I[1. いじめられている生徒の支援] C --> J[2. いじめている生徒への指導] D --> K[3. はやし立てる生徒、見て見ぬふりをする生徒への指導] E --> L[4. 担任から保護者へ連絡] </pre>	<ul style="list-style-type: none"> ○個人で対応することなく、学校全体の問題としてすべての教職員が関わる。 ○毅然とした態度で対応する。 ○指導のポイントを明確にする。 ○「あなたのことが心配」というスタンスを忘れない。

5 <u>いじめの経過観察</u>	(1) 変化を見守る	被害者、加害者、周囲の生徒を見守り、問題を繰り返さないよう心の成長をうながし、行動の変容を観察する。	○いじめの完全な解消と 望ましい人間関係の構築を目指す。
-------------------	------------	--	---------------------------------